

金大附高新聞

発行所
 新聞編集局
 金沢大学附属高校生徒会内
 金沢市平和町1-1-15
 編集局長：古本 麻緒々
 編集局長代理：豊田 莉々
 印刷
 金沢大学附属高校

第74回卒業式から約3週間が経過した。3年ぶりとなる、在校生の参列に対しての想いを本校の中澤宏一校長先生に聞いた。式典後の学年団へのサプライズや、送辞を務めた後期生徒会長の合田遥稀さんにひらめきのコツを取材した。

卒業式の裏側大特集！

～触れ合いがなかった時代を思い出に～

名前に込めた
3年間の思い出

中澤校長は74回生と共に本校へ入学し、同時に感染症の脅威と戦ってきた。卒業式での証書授与の場面で特に、74回生と中澤校長との大きな絆が垣間見えた。「あの子とこんなことあったな、って思い出に浸りながら名前を読んでたから時間がかかっちゃったんだよね。」と中澤校長は言う。親からの想い、友達からの想いのすべてを背負った唯一無二の名前を一人一人読み上げ、手渡す瞬間は最高に幸せだったと喜びをかみしめた。



式辞を披露する中澤宏一校長先生

3年間ありがとう
 式典後、74回生の生徒による学年団へ



の感謝のサプライズが行われた。生徒全員からのメッセージを載せた通知票と花束が贈呈されると、担任の3名の先生方は涙を浮かべて喜びと共に教え子との別れを惜しんだ。
 普段は見られない先生方の涙に生徒はサプライズ成功の喜びをかみしめ、思い出に残る門出を彩った。

3年ぶりの在校生

卒業式での保護者、在校生の座席配置にはあるこだわりがあった。「保護者には子どもが歩く姿を間近に見てほしい、そして2年生の拍手で卒業生を送り出してほしい。自分の将来の姿と重ねてほしかったんだよね。」自分たちが学校を引っ張っていくという自覚を持たせるための工夫だった。「自分で道を作ってやりたいようにやればいい」と生徒の将来選択も後押しした。(文責 豊田)

合田さんに聞く！
ひらめきのコツ



伝説の送辞を行った合田遥稀さん

会場全体を笑顔で包み込み、ユーモアあふれる伝説の送辞を披露した後期生徒会長の合田遥稀さん。ひらめきのコツは日常生活のあらゆる事象に疑いの心を持つことだと言う。「今回卒業式で出した問の『ボタン』も、卒業式をお題とした連想ゲームでひらめきました。」と笑顔を見せた。